

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第7号

令和5年11月1日

中学生のみなさんへ

キャリア教育部

人生の選択について考えてみましょう。選択するということは決断することです。「決断」について、「感性」と絡めて書かれている本があったので、冒頭とおわりに、の部分を紹介します。

「感性」とは何でしょうか？感性を用いて、あなたはどのように生きていきますか？
どう生きるかを決めるのは自分自身です。

感性のある人が習慣にしていること

～自分らしく生きるための「心のものさし」を手に入れる～

SHOWKO著 クロスメディア・パブリッシング

冒頭の要約

情報があふれる現代で、「流されずにいる」ことは簡単ではありません。

「トレンドを追って服や小物を買う」「口コミを参考にして、観る映画、読む本、行くお店を決める」「みんなが見ているテレビ番組や動画を見る」「人に勧められて趣味を始める」流行に敏感なことは、決して悪いことではありません。

でも、「自分に似合った洋服を着こなしている」「その人らしいインテリアや小物に囲まれている」「人が知らない自分だけのお気に入りを持っている」「熱中できる趣味や嗜好^{たしな}みを持っている」・・・あなたの周りに、そんな素敵なお友達はいるのでしょうか。そして、そんな「自分らしい」生き方をしている人に、心のどこかで憧れていたりはしないのでしょうか。

「自分に似合うもの」「自分だけの価値」「自分に向けられた気持ち」「自分が好きになれるもの」これらはすべて、**正解がないものです**。この、目に見えない価値を感じ、正解のないことを選び抜ける力こそ、「感性」です。

でも多くの方が、感性と聞くと、「自分にはそんなセンスはない」と感じてしまうことと思います。感性とは持って生まれた「能力」や「才能」のことで、自分にはそんなものはないと感じてしまう。そう考える人が多いのではないのでしょうか。

ですが、「感性」は特別な人だけが持ち得るものではありません。**「観察する」「整える」「視点を変える」「好奇心を持つ」「決める」**この5つの習慣によって、身につけられるものなのです。

(第1章から第5章で49の習慣が述べられています。)

おわりに～人生は「感性」を養うための旅～の要約

どうしても考えていただきたいことがあります。「養われた感性を用いて、あなたはどう生きますか？」ということです。「知る」と「行動する」ことのあいだには、大きな隔りがあります。感性とは、生き方そのものです。

自分を信じて、人を愛し、自分の人生を選択していくための基礎となるものが、感性です。世の中には、見ているようで見えていないものが、どれだけ多いでしょうか。

やろうとっていて、行動に移せていないこと。自分が選択しているようで、実は選択させられていること。そんなことは、どれだけあるのでしょうか？

答えのないことを決めることは、大きな覚悟と自分への責任が伴います。

誰しもはじめるときに、最後の形まで見えているはずがなく、考え方も時代も、必ず未来に向けて変わります。「絶対」などということは存在し得ないのです。しかし、そのときの自分の感性で決断し、行動したことは、たとえ予想が外れても、必ずその後の人生の大きな自信となって返ってくるはずです。

自分が決断したことで、万が一失敗したとしても、それを糧に「よいもの」にしていく。

「間違いだったのなら、間違いでないようにしなくちゃ」と、未来を創り出す。それが、真っ当な経験値であり、自分への自信だと思っています。

一緒に生きる人、一緒に仕事をする人、これからの人生に持っていくもの、そうでないもの。これらを冷静に潔く取捨選択し、同時に、長い時間軸で愛をもって世の中を見る。この一見相反するよう見える行動が、今を生きるあなたの存在を分厚く、そして人生を趣深いものにしていくのではないのでしょうか。

部活動をする、〇〇さんと友達になる、趣味を始める、やりたいこと・進学先を決める……一つ一つ自分で決断し、生きていきましょう！人生は失敗やミスをすることの方が多いです。しかし、それを経験値として活かし、自分が満足するように持っていけばよいのです。何回かの失敗でくじける必要はありません。成功→失敗→成功→失敗の繰り返しです。

自分のものさしに従って、自分だけの人生を歩んでいきましょう。

一人ひとりに天の使命があり、その天命を楽しんで生きることが、処世上の第一要件である。

渋沢栄一（2024年からの新紙幣に描かれている人です）

人生とは、人生以外のことを夢中で考えているときにあるんだよ。

ジョン・レノン（ビートルズを知っていますか）

人間のほほえみ、人間のふれあいを忘れた人がいます。これはとても大きな貧困です。

マザー・テレサ（ノーベル平和賞を受賞しました）